

名寄周辺モデル地域圏域検討会 物流ワーキングチーム(案)

資料3

※(案)につき、取扱注意

(1)概要

- ・名寄周辺モデル地域においては、平成29年11月に圏域検討会が発足し、平成30年3月に施策パッケージを作成。
- ・施策パッケージにおける喫緊に取り組む事項の1つとして、**「物流システム
の構築に向けた取組」**を掲げ、ワーキングチームを適宜開催して議論。

■ワーキングチームのメンバー

- ・名寄商工会議所
- ・道北圏域ロジスティクス総合研究協議会 (R2.7改組)
- ・名寄市
- ・北海道 総合政策部
- ・北海道 上川総合振興局
- ・国土交通省 北海道運輸局
- ・国土交通省 北海道開発局
- ・国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部

■ワーキングチームの開催状況

H29.11.6 第1回圏域検討会

H30.1.29 全体ワーキングチーム

H30.3.22 第2回圏域検討会

■施策パッケージを策定

H30.7.19 物流ワーキングチーム①

H31.2.21 物流ワーキングチーム②

名寄周辺地域物流指針(案)を策定

R1.11.28 物流ワーキングチーム③

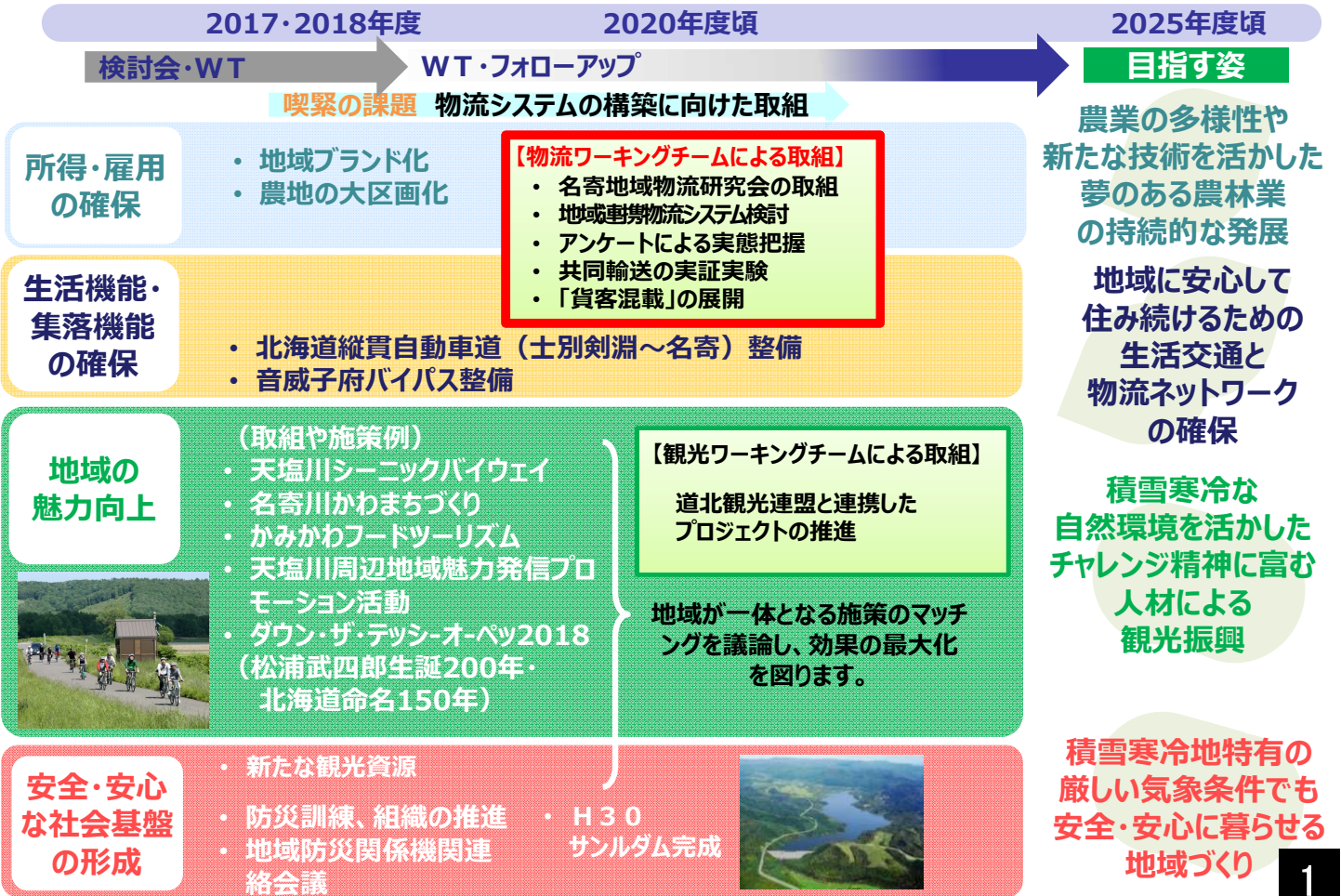
R2.10.13 物流ワーキングチーム④

R3.3.1 物流ワーキングチーム⑤

R4.3.10 物流ワーキングチーム⑥



■施策パッケージの概要



名寄周辺モデル地域圏域検討会 物流ワーキングチーム(案)

(2)これまでの取組経緯

道北地域の物流課題

地域物流の縮小？

- ・都市部からの「**時間距離**」大
- ・主要貨物である農産品は「**季節変動**」大

片荷による非効率な輸送
高い物流コスト

地域の物流事業者の減少
▶**地域物流の縮小**

宅配網の縮小？

- ・宅配輸送への偏重
- ・地方部の人口減少の加速化

宅配事業の収益環境の悪化
▶**宅配サービス縮小の懸念**

H29.7.12
(株)北洋銀行と北海道物流開発(株)が
「道の駅」を活用した
地域連携物流システムを提言。
H29.10.20
名寄商工会議所が
「道北経済人フォーラム」を開催

地域による問題提起

自治体による取組

地域課題の共有

名寄周辺モデル地域圏域検討会
(H29.11.6)

- ・物流ネットワークの効率化に有効な取組 とは？
- 「共同配送」
- 「貨客混載」
- 「**拠点集約化**」 等

どこに荷物を集めると効率的か？

地域のアイデア

「道の駅」の活用！？

- 貨物の集積拠点として、
- ・主要幹線道路に面し、
- ・人や地元産品が集まる 等特性。



検討課題

- ・「道の駅」は物流に使ってよいのか？
- ・複数の温度帯をどう運ぶか？
- ・「誰が」「どうやって」運ぶか？



宅配事業者間の連携 (R1～)

- ・名寄市が中心となり、大手宅配業者の配送拠点の相互共同利用を実現。

宅配事業を維持するためには？

今後の展望

引き続き、
名寄周辺地域の物流効率化
に向けた情報共有・取組を
継続

地域のアイデア

名寄周辺地域の物流拠点化！

R3.12
**王子マテリア名寄工場
閉鎖**

新たな検討課題

地域への影響を最小限
とするためには？



「道の駅」を活用した小ロット貨物の効率化や道の駅間輸送による効率化、道北物流調査

地域の関係者による議論

R4.3.10, R3.3.1、
R2.10.13, R1.11.28
名寄周辺モデル地域 物流WT

**道北圏域ロジステックス総合研究
協議会 設立(R2.7.31)**

【北海道開発局】
・「道の駅」等を拠点
・CRBを用いた輸送実証



※CRB（コールド・ロール・ボックス）：電源がなくても長時間
冷凍・冷蔵品の品質保持ができる移動式冷凍・冷蔵庫。

H30.1.29
名寄周辺モデル地域 全体WT
H30.3.22
名寄周辺モデル地域圏域検討会
H30.7.19
名寄周辺モデル地域 物流WT

共同輸送の調査・試行によって
道の駅の物流拠点としての
利用可能性を検討！

地域の関係者による議論

新たな疑問…

- ・荷主のニーズはあるの？
- ・ビジネスとして成立するのか？
- ・何を運ぶのが現実的か？

名寄周辺モデル地域圏域検討会 物流ワーキングチーム(案)

(3)取組により期待される効果及び課題

令和3年度までの取組内容

関係市町村・民間

- 名寄周辺地域の物流拠点化に向けた可能性検討(道北圏域ロジスティクス総合研究協議会)
- 北・北海道中央圏域定住自立圏参加自治体・民間との連携強化・物流課題解決に向けた検討(名寄市役所)

北海道

- 「北海道交通政策総合指針」重点戦略に基づき、関係機関の取組フォローアップ

国土交通省

- 「総合物流施策大綱(2021~2025)」の着実な推進、物流総合効率化事業等の推進(北海道運輸局)
- 道北物流調査、道の駅を活用した物流効率化の実証・可能性検討(北海道開発局)

■「道の駅」を活用した物流効率化の取組内容

- 道の駅物流の担い手となる物流事業者の「道の駅時刻表」を作成
⇒ 道北の内陸部、日本海側及びオホーツク海側を通行する運送事業者を抽出し、ルート、通過時間、輸送品、荷姿、温度帯、積載率等を整理
- 旭川～稚内間の道の駅を対象に地域の特産品や相互販売の意向を調査
⇒ 道の駅間連携の可能性が高い道の駅とそれらをつなぐルート把握

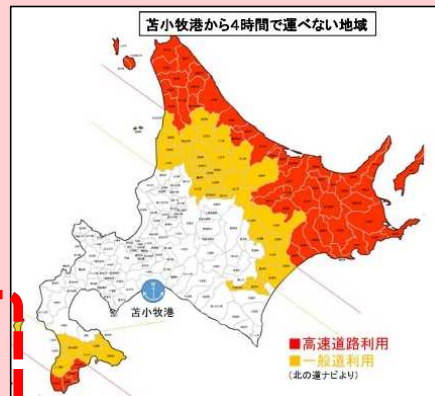


横軸が道の駅間物流の基幹インフラ。縦軸が生産者からのファースト1マイルや消費者へのラスト1マイルのイメージ。

令和3年度までの取組から得られた課題(今後検討すべき事項)

●名寄市を中核とする物流拠点化の実現

- ⇒ トラックドライバーへの時間外労働の上限規制の適用(2024年度～)による1日輸送距離の制限(片道約4時間の上限)。
- ⇒ 高規格道路延伸に伴う名寄地域の時間距離的優位性向上。
- ⇒ 名寄市への物量集積(拠点化)の実現による地域間輸送の効率化。広域防災拠点機能付加の検討。



出典) 名寄物流WT資料。
北海道開発局にて作成。

●「道の駅」間輸送の具現化

- ⇒ 道の駅間の相互販売及び道の駅間共同配送の実施に向けた計画検討

取組により期待される効果(目指す姿)

生産者

- 道北地域の特産物や少量生産物の安定出荷
⇒ 生産者の出荷負担の減少、地域の新たな特産品発掘

物流事業者

- 片荷解消による新たな利益の発生、トラックドライバーの就労環境改善 等
⇒ 輸送の効率化、ドライバー確保

地域物流・生産活動の維持

名寄周辺地域の産業活性化